

8月11日 逍遙



この「逍遙館長的ところ」は、昔の出来事を、単純に365日の「歴史史実カレンダー」に落とし込んでみる、という発想が発端でしたが、思いがけず、その史実の実像やそこに至る必然・偶然の織りなす不可思議さ、そしてそこに関わった人々の一人の人間としての様々な思いを感じ取ることができます。片や中には、日常的過ぎて普通なら何らの記録にも残らないはずの日もあり、今日8月11日はある意味そういう日の一つかもしれません。それは伊佐市にある郡山八幡宮本殿改築の際（昭和29年）、室町時代の大工が、何かの祭事で期待していた焼酎（当時はサツマイモが日本に伝わる前なので米焼酎？）を一度も振る舞ってくれなかった依頼主に腹を立て、今日の日付で「ドケチ」と落書きした木片が見つかった（これが「焼酎」という文字が残る日本最古の記録）ことです。焼酎を飲むことが必然の大工と、ドケチで焼酎を振る舞わなかった依頼主の偶然（必然？）という、ありふれた日常の組み合わせが、長い年月を経て今、このような歴史的価値に繋がることもあるのですね。

次回「真逆をも超越する 西郷隆盛の魂、のところ」

「悪口・落書きも

たまには、のころ」